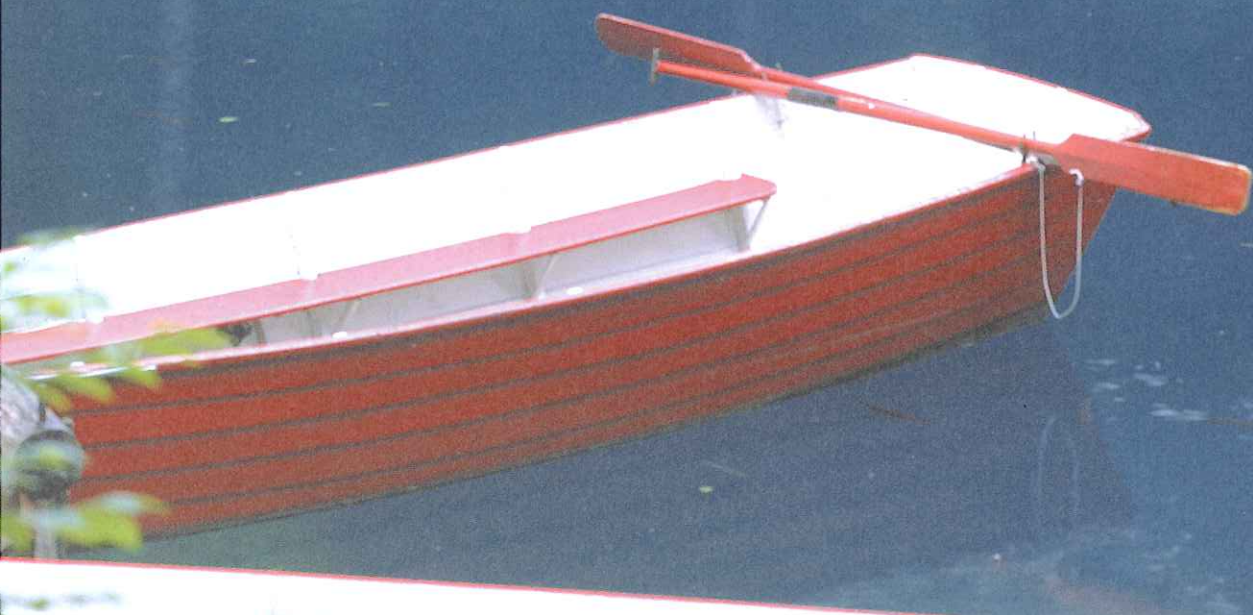
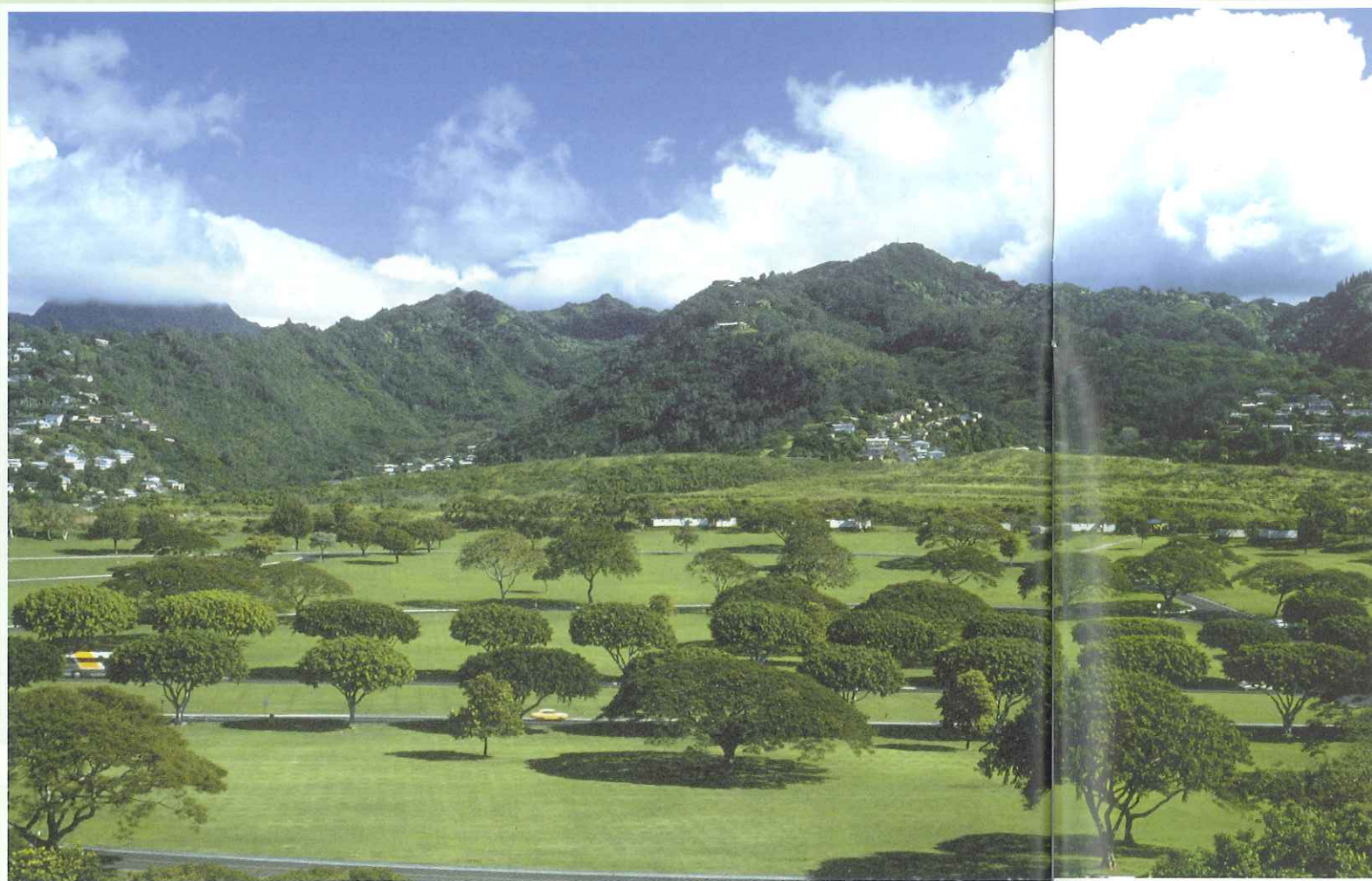


if 共済会





その日は陽気がよく、コートがいらないくらいだった。
父の墓は家から車で15分足らずのお寺にあった。
住職に挨拶しに庫裡^{くら}にうかがう。
「元氣そうだね。せっかくだからご本尊にもお参りして
いったらどうだね」

久しぶりに聞くお経は心に沁みた。

父の葬式の光景が頭に浮かぶ。

あの時は身体が震えていて、お経も耳に入らなかった。
だがいまは、しみじみとした気持ちだ。

1年半が経過し、ようやく私は父の死を受け入れるこ
とができたのかな、と思う。

葬式の時、頭が混乱し、頭の中が渦巻いていた。

病院で医師に死亡を宣告されてから火葬まで、あつと
いう間の出来事だった。

その後、疲れもあり寝込み、氣力が落ちた。

一人娘には父の死はきつかった。

後悔してばかり、恨み言ばかり。

でも、最近ようやく思えるようになった。

「お父さんの子でよかった」

父の墓をゴシゴシ洗うと、同時に自分の心も洗われた
ようで、清^{すがすが}しい気持ちになった。

C O N T E N T S

詩.....1

得する、役に立つ事前相談

- 1. 事前相談のメリット2
- 2. 事前準備のない事前相談はうまくいかない3
- お葬式準備ノート4
- 3. 予算をしっかりと立てましょう6
- 4. お金よりも大切なことがある8

家族への最後のラブレター11

お葬式のいろいろ

- 遺体葬と骨葬13
- 密葬と本葬14
- 家族葬15
- 無宗教葬（自由葬）16
- お別れ会・個人葬と社葬17
- 合同葬・夜の告別式18
- 伝統的葬儀の見直し19

お別れ一副葬品の選択20

チチとのメール22

平野典子の葬儀なんでも相談

- 香典辞退、お花は受け取ってもらえるの?24
- お坊さんは葬儀社が紹介してくれるの?25
- 自分が認知症になったら?26
- 「葬式無用」と言っているが?27

if 共済会の会員特典28

if 共済会 保険プラン30

全葬連加盟組合一覧

得する、役に立つ事前相談

いま葬儀の事前相談が注目を集めています。
いい葬儀をしたい、自分たちの希望に沿った葬儀をしたい、
というならば事前相談は欠かせません。
でも事前相談には上手に行うコツがあります。
ここではいい葬儀を実現するための
事前相談のコツをまとめてみました。

1

事前相談のメリット

まうので、希望を葬儀社にきちんと
伝えることができます。

③ 事前相談することにより、費用
を前もって把握することができます。

家族が亡くなるということは大
変なことです。準備もなくその日を
迎えると頭の中が真っ白になって、
何をやっていいかわからなくなりま
す。連絡すべき人にも連絡できな
かったり、希望しない形態のお葬式に
なったり、思わぬ出費になってしま
ったりします。

費用も内容も形態も事前に相談
して決めておけば、いざその日を迎
えても、慌てることなく、故人の弔い
に専心することができます。

① 事前相談することにより、信頼
できる葬儀社を見きわめ、選ぶ
ことができます。

お葬式というのは、信頼できる葬
儀社に頼むのとそうでないのでは
、大きく変わります。

② 事前相談することにより、充分
に希望を伝えることができます。

いざというときには混乱してし



2

事前準備のない事前相談は うまくいかない

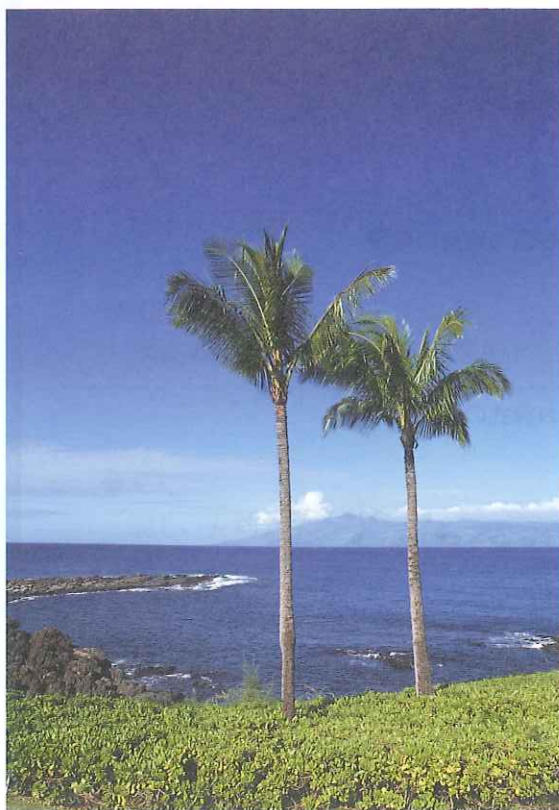
家族の葬儀、自分の葬儀について
「どうしよう」と思ったときに、まず
葬儀社へ行つて話を聞いてみよう、
というのは縁起の悪いことではあり
ません。

でも実のある事前相談にするた
めには必要な準備というのがあり
ます。自分の考えを整理するという
作業です。

「葬式」といってもそれぞれいろい
ろです。故人(本人)がどういう人

であるか、家族の想いはいくつか、に
よつて大きく変わってくるのです。
何も準備しないで葬儀社に相談に
行けば、葬儀社としてもどういう情
報を提供すればいいのか迷ってしま
い、あたりさわりのないお葬式を提
案することになるでしょう。それで
は満足できるいいお葬式を実現す
ることは不可能です。

「お葬式準備ノート」(4ページ)に
自分の考えを書き出してみましょ





お葬式準備ノート（記入例）

■送られる人（ご本人）の名前

山田 一郎（やまだ・いちろう）

■送られる人の年齢、主な経歴

82歳、元（株）世紀機械営業部長
退職後、山本地区町会長を歴任

■あなたの名前、送られる人との関係

岡田 和子、長女

■送られる人の現在いる場所

永沢病院入院中

■送られる人の性格、趣味

温厚で真面目、面倒見がいい
囲碁の会に長く入っていた

■送られる人の交遊関係

●家族

娘3人の家族、計10人

●親戚

本人のきょうだい2人とその家族
いとこ等、計約20人

●友人

親しい人約10人

●仕事関係

約30人？

●所属団体等

趣味の会等約20人？

●地域の関係

町会長をしていたので約100人？

●その他の関係

約20人？
（年賀状では毎年150枚）

■宗教および宗教者

曹洞宗僧林寺 ご住職

■お葬式で最も大切にしたいこと

温かく送ってあげたい
派手にはしたくない

■葬儀の日程で考えること

親戚が遠方なので2日くらい必要

■葬儀の場所の希望

まず自宅に寝かせてあげたい
お葬式は会館希望

■お葬式の飾りの希望

伝統的で落ち着いた感じに

■その他希望すること

代々院号がついている

■費用の自己負担額の見込み

本人が葬式費用として200万円用意している
るのでその範囲で



お葬式準備ノート

■送られる人（ご本人）の名前

●所属団体等

■送られる人の年齢、主な経歴

●地域の関係

■あなたの名前、送られる人との関係

●その他の関係

■送られる人の現在いる場所

■宗教および宗教者

■送られる人の性格、趣味

■お葬式で最も大切にしたいこと

■送られる人の交遊関係

■葬儀の日程で考えること

●家族

■葬儀の場所の希望

●親戚

■お葬式の飾りの希望

●友人

■その他希望すること

●仕事関係

■費用の自己負担額の見込み

3

予算をしっかりと立てましょう

しばしば問題になるのは、最初に見込んだ費用と実際にかかった費用が異なることです。

お葬式には葬儀にかかる費用のほか、霊柩車や火葬場の費用、それに飲食や返礼品の費用、そして宗教者へのお礼があります。

飲食費や返礼品等の費用は葬儀社が扱ってくれますが、宗教者へのお礼は別です。これは葬儀社ではなく、僧侶等の宗教者へ直接支払うものです。一部の葬儀社で宗教者へのお礼も一括して取り扱っています。宗教者と葬儀社の結託という不明朗な関係です。たとえ葬儀社に紹介してもらっても、お礼は直接しましょう。

飲食費は通夜や葬儀後の会食に出られる人の数、返礼品は会葬者の数によって変動します。何人くらいか予め予想しておきましょう。

葬儀ではお金が出るだけではなく、入るお金もあります。

健康保険の葬祭費もありますし、ご本人が葬儀費用にとかけておい

た保険金もあります。if共済会員であれば基本葬儀料の10%が弔慰金として出ます。また、香典があります。

香典を計算される場合には、家族・親戚(成人に限る)が一人平均3万円、一般の会葬者が平均7千円(5千円と1万円が多いので)、地域の人が平均3千円と考えて計算するといでしょう。来られる方が多いと飲食費や返礼品費は高くなりますが、その分香典も増えるので収支は改善されます。

また、親戚の宿泊費等のその他の費用もかかります。10万円くらい見込んでおきましょう。

ここで、平均的な葬儀を例にとって収支をシミュレートしてみましょう。(下段参照)

基本葬儀料は80万円見込みでしたが、これにもいろいろランクがあります。実際にはオプションになる料金もあるので、ここでは総額として平均的な金額である80万円を計

上してみました。

基本葬儀料に必要な葬儀社の葬儀に関わる費用は入っていますが、霊柩車や火葬場の費用は別途必要で8万5千円見えています。

供花は遺族の分。2万5千円を対で出したとしました。飲食費は通夜の分一人3千円、葬儀後の会食一人5千円と考え30人分で計算。返礼品は単価3千円で1000人分。ここまでが葬儀社に支払う費用で14万5千円です。

宗教者へのお礼は考え方でいろいろ

ありますが、ここではごく一般的な例40万円を計上してみました。

その他の費用は喪家にかかる費用で一応10万円見ました。

支出の合計は197万5千円となりました。車1台が買えるくらい大きな金額です。

しかし、これが全て喪家の負担分になるわけではありません。入るお金もあるからです。

入るお金は、香典が親族分20人、一般の方50人、地域の方30人で見積もり、ご本人が100万円の葬儀保

シミュレーション(結果)

家族・親族	30人
友人・知人等	80人
地域の方	90人

(支出)	
基本葬儀料	800,000円
葬儀関連費用	85,000円
供花	50,000円
飲食費	320,000円
* 40人×8,000円	
返礼品費	600,000円
* 200人×3,000円	
宗教者へのお礼	400,000円
その他の費用	100,000円
総額	2,355,000円

(収入)	
香典(親族)	900,000円
香典(一般)	560,000円
香典(地域)	270,000円
国民健康保険葬祭料	50,000円
葬儀保険	1,000,000円
if共済会弔慰金	80,000円
総額	2,860,000円



人数が倍の200人に増えた結果、支出は38万円増加し、2,355,000円になりました。さあ大変です。

しかし、会葬者が増えるということは香典収入も増えるということです。結果は286万円の収入となり、予算を69万円上回りました。その結果505,000円の余剰が発生しました。葬儀保険がない場合には喪家の負担分は805,000円が495,000円となり、こちらも大きく減少しています。

シミュレーション(予想)

家族・親族	20人
友人・知人等	50人
地域の方	30人

(支出)	
基本葬儀料	800,000円
葬儀関連費用	85,000円
供花	50,000円
飲食費	240,000円
* 30人×8,000円	
返礼品費	300,000円
* 100人×3,000円	
宗教者へのお礼	400,000円
その他の費用	100,000円
総額	1,975,000円

(収入)	
香典(親族)	600,000円
香典(一般)	350,000円
香典(地域)	90,000円
国民健康保険葬祭料	50,000円
葬儀保険	1,000,000円
if共済会弔慰金	80,000円
総額	2,170,000円

左のような予算ができました。これでしたら喪家の負担分はなしで抑えられます。しかも、まあまあ標準的なお葬式をあげることができそうです。

実際はどうでしょうか? 予想よりも会葬者数が多かった場合について見てみましょう。

予想が100人だったのに対して、家族・親族30人(プラス10人)、友人・知人等80人(プラス30人)、地域の方90人(プラス60人)と合計で倍の200人になったとしましょう。



険に入っている場合としました。
この場合の香典は104万円になります。

それだけではありません。if 共済会の会員には弔慰金が出ますので、基本葬儀料が80万円としたらその1割の8万円が受け取れます。さらにご本人が国民健康保険に入っていると、地域により多少異なりますが約5万円の葬祭料が出ます。したがって収入の合計が217万円になります。

ここで収支計算すると19万5千円の余りが出ます。これを料理のランクを上げる分に回して収支をトントンにすることもできます。

4 お金よりも大切なことがある

お金の問題はある意味で簡単です。いくらまでなら自己負担できるかで大枠は決定するからです。それぞれの家の経済状態によって、自己負担はできない、50万円までならできる、100万円までならできる、150万円までならできる、200

ご本人が葬儀保険に入っていない場合には80万5千円が喪家の負担分になります。

お葬式の場合、会葬者数が予想したより多い場合には一般に喪家負担分が少なくなり、逆に会葬者数が予想したより少ない場合には喪家負担分が増加します。香典を辞退すると、支出増がそのまま負担増になります。

会葬者数をどのくらい見込むか、喪家負担分をいくらするか、費用を考えるポイントになります。支払い総額がいくらか、ではなく、自己負担額がいくらかということです。

万円までならできる…と決まってくるからです。一般的なお葬式をする場合には、事前の準備として100万円の葬儀保険に入っていれば喪家の自己負担額をゼロにすることが可能です(香典を受け取る場合)。問題は、故人のためにどれだけ心

を込めて別れ、弔うことができるか、ということです。

故人(本人)の想い、遺族の想いに沿ったお別れができるかです。5つのポイントをあげてみました。

①日程の組み方Ⅱ慌しくお別れない

日程は家族がゆつくりとお別れできるように組みましょう。不十分な慌しいお別れでは後に悔いが残ることが少なくありません。

そのためには丸1日は遺体と家族だけで過ごす時間を作ることが大切です。

法的には死亡後24時間は特別なケース(指定感染症)以外は火葬できません。ですから最短2日間で葬式を終えることも可能です。しかしこれではあまりに慌しいお葬式になってしまいます。

家族の死というのは実際には大きな心の衝撃です。何が何だかわからない精神状態を招きます。大切なのはゆつくりときちんとお別れすることです。

1日は打ち合わせ、準備、連絡ということで時間が過ぎます。

2日目に家族だけで遺体とお別れする時間を持ちます。納棺もします。

3日目が通夜

4日目が葬儀

と4日間をかけるのがいいでしょう。時間をかけるのがいいといっても、あまり長いと遺体を衛生的に保全することが難しくなります。骨葬(火葬を葬儀の前にするケース)でも早くて3日目に火葬、理想的には4日目の火葬がいいでしょう。

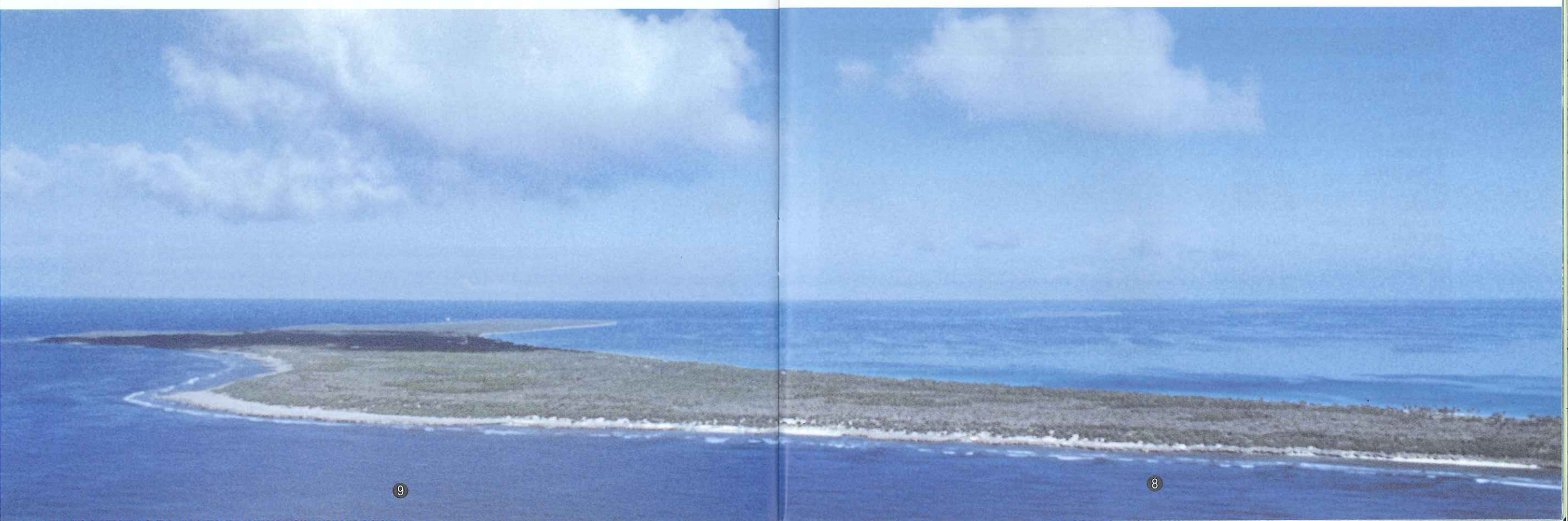
②宗教の選択Ⅱ本人の宗旨を尊重

お葬式で宗教は大切です。心を込めて弔うことができるかどうかは、お葬式の成否を決定します。

宗教を考えるポイントの第一は本人の宗旨です。まず何よりも故人を弔うには本人の宗旨を尊重することが大切です。

もし、本人の宗旨が明らかでないときには家の宗旨。つまりどこかの寺の檀家になっている、どこかの神社の氏子である、といったことが選択肢になります。

もう一つ考えたいのは宗教者を本人あるいは家族がよく知っている



ということ。本人あるいは家族をよく知らない宗教者では心が込もった葬儀を営んでくれるか不安です。

葬式をどうするか、ということを考えたとき、葬儀社選びよりも重要なのは宗教者選びです。信頼できる宗教者であれば、後のいろいろな問題についても相談にのってもらえるでしょう。

③場所の選択Ⅱどこで葬儀を

かつては自宅で葬儀をすることが一般的でしたが、いまは葬儀会館（斎場）で葬儀をする人が多くなりました。

葬儀会館はいろいろ備わっていて便利という面はありますが、自宅は少人数であればアットホームな感覚でお別れできるという面もあります。また地域の人と懇意であるならば地域の集会所という選択肢もあります。

それぞれメリット、デメリットがあるので、故人を送るのにふさわしい場所を選択しましょう。

亡くなった直後の1～2日は自宅で、通夜、葬儀は葬儀会館あるいは

集会所や寺院で、という選択肢もあります。

④規模の選択Ⅱ誰に送りたいか

お葬式の規模はさまざまです。地域の人が皆で送る300～500人規模のお葬式があるかと思えば、家族数人でひっそりと送るお葬式まで、これが「普通」というお葬式はなく、さまざまなお葬式が見られます。ちなみに平成16年の全国の平均会葬者数は132人でした。

親戚・知人・友人それに地域の人が皆に送ってもらうのも素敵なことです。また、本人をよく知っている人だけで温かく送ってあげるといっても素敵なことです。お葬式の規模はどれが正解かということはありません。

亡くなった直後は家族だけで送り、しばらくしてお世話になった方々に集まっていただき偲ぶ会（お別れ会）をするという選択肢もあります。

提案したいのは、葬儀が4日間だとすれば、最初の2日間は近親者だけで自宅で心ゆくまでお別れし、通夜・葬儀は集会所や葬儀会館で皆と

お別れするという方式です。

⑤飾りの選択Ⅱ本人の個性の尊重

祭壇にもいろいろあります。伝統的な白木の祭壇から生花をアレンジした祭壇まで多種多様です。

祭壇は葬儀では大きな比重をもちますが、まず第一は宗教によって変わるということです。伝統的なのがよいといってもキリスト教で白木の奥の祭壇は似合いません。

宗教の次に考えるのが本人の個性です。送られる本人のライフスタイルに合った飾りを選びたいものです。

しつとりとした落ち着いた感じを求めるならば、白木の奥の祭壇に白菊というのは絶妙な選択です。自然派の人にお薦めは緑の葉を用いること。生け花を趣味にしていた人には生け花で飾るといいうのは素敵です。本人の好きだった花をあしらうのもいいでしょう。

祭壇はその人らしさの表現と言ってもいいでしょう。



家族への最後のラブレター

あて名

神崎 芳江 様

関係

長女

■もっとも大切にしている思い出

あなたが小学4年のときに私の似顔絵をかくってくれたことです。実際よりもずっと美人にかいてもらってうれしかったです。いまでも宝物です。

■うれしかった思い出

あなたが元気で生まれてくれたこと、それがいちばん

■悲しかった、苦しかった思い出

あなたが中学1年のとき交通事故にあい、けがをして入院したこと
あなたが高校1年のとき反抗期で登校拒否したとき

（でも、あのような経験が親子の結びつきのあり方を考え直させてくれました）

■あなたへ伝えたいこと

どんなときでも家族を信じて、強く生きてほしい

あなたは少しがんびりすぎるところもあるから、ときには休むことも大切よ

■あなたに会えてよかったこと

苦しいときにもあなたの顔を見て、あなたを感じて生きることができました。孫も授かり、いまは幸せな一生だと思っています。

山本 澄江

お葬式のいろいろ



遺体葬と骨葬

葬儀の順序は、一般的には通夜—葬儀・告別式—出棺—火葬となっています。これは昔、火葬ではなく土葬だった時代に、葬儀を行い葬列を組んで墓地に行き、埋葬（＝土葬）していましたが、この土葬が火葬に替わったものです。

しかし、北海道の一部、東北地方等の関東北部以北、甲信越地方の一部、中国地方や九州の一部では、葬儀・告別式に先立って火葬が行われています。通夜に先立って火葬を行う地域もありますが、通夜を行い、翌朝に出棺して火葬をし、午後から葬儀・告別式を行い、終わると墓地に行き納骨という地

域もあります。土葬が長く続いた地域に見られる方式で、葬儀の最後はお墓に埋葬する、という考えからのものです。

葬儀・告別式に先立って火葬をし、遺骨を前にして行うお葬式を「骨葬」と言います。

骨葬地域であったのが東京方式の影響で遺体葬形態に変わることがある一方、骨葬が見直されています。つまり、死亡直後は家族だけで密葬にして火葬を済ませておき、時間をあけて遺骨でもつて本葬、葬儀・告別式、あるいはお別れ会を行うという方式です。



「お葬式」と一言と言っても、最近ではいろいろなタイプがあります。地域によっても異なります。故人の社会的関係によっても異なります。でも変わらないこともあります。大切なのちを惜しみ、弔う心です。



お葬式のいろいろ

お葬式のいろいろ



家族葬

日本のお葬式の原型は地域共同体葬にあります。葬儀となると遺族は死別の悲しみの中にあるので、遺族は死者の弔いに専念させて、運営その他雑事は全て隣近所の地域共同体が取り計らうというものでした。

まだ、地域がお葬式を取り仕切っているところもありますが、都市化が進み、地域共同体のつながりも薄くなり、葬儀も個人化してきたところも少なくありません。

高度経済成長期以降、地域共同体の力が弱まる一方、葬儀も社交化して会葬者が増加し、一般的に個人葬で平均会葬者数が約300人になりました。そうすると遺族は参列者や会葬者の接待に忙しく、死者の弔いに専念できないと

いう不満が出てくることもあります。また会葬者の3分の2は生前の死者を知らない人で占められるようになり、寂しい思いをすることもあります。

そこで生前の本人をよく知る人だけで葬儀をしたいという希望が出てきて、その支持を集めているのが「家族葬」です。

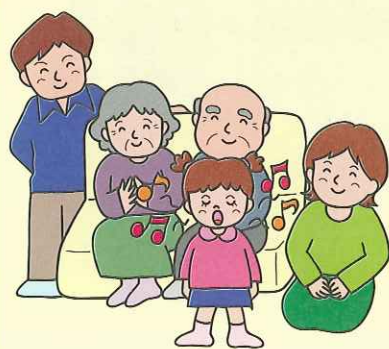
この家族葬は新しい用語ですが、厳密な定義がありません。文字通り家族だけで営むものから、親戚や本人と親しかった人が加わって行うものまであり、人数は平均30人程度で80人を上回らないものです。

かつての表現では「密葬」ですが、「密葬」という言葉は閉じた暗いイメージがあるのに対し、「家

族葬」は本人をよく知る人だけで、ゆつくりと本人と別れる時間を持ち、親密に送りたいというイメージがあります。

宗教的には無宗教葬もあります。宗教の場合、僧侶等の宗教者が招いて営まれます。

でも、この家族葬は、一歩間違えると大切な地域のつながりを切ったり、故人の大切な友人・知人に連絡がいかなかった、という問題も発生することがあるので、注意が必要です。



密葬と本葬

「密葬」とは近親者だけで営まれる葬儀のことです。一般の会葬者からの弔問を受けるのが告別式ですから、一般の人々には葬儀を案内しないで、告別式を行いません。

年末年始にかけて死亡したときは近親者だけで密葬をし、松が取れてから皆さんに案内して本葬をするというのがいまでもあります。農村部では農繁期に死亡したとき、仕事の忙しいときに葬儀の手伝いをお願いしては悪いと、とりあえず密葬にして、仕事に少しゆとりができた時に本葬をすることがあります。

会社の経営者が死亡して社葬にするときは、多方面に案内したり運営の準備に時間が必要なため、死亡直後は近親者で密葬をし、1〜2ヵ月後に本葬として社葬をすることがあります。

しかし最近では、本葬を行うことなく、近親者での密葬だけで終わりにする形態

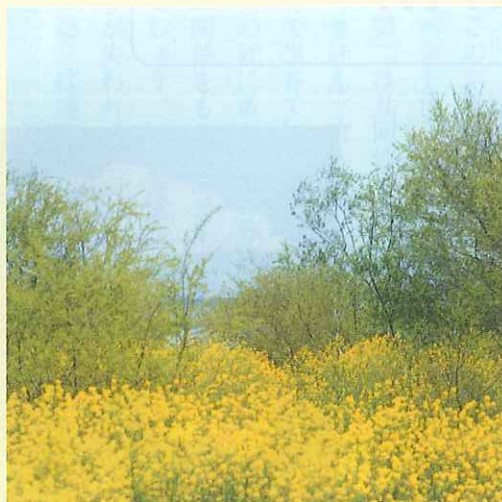
もあります。この場合、故人と親しかった人たちが「お参りできなかった」と悔いたり、後から「せめてお線香を」と自宅を訪れる人が少なからずいて、遺族が大変な思いをするケースもあります。



お葬式のいろいろ



お別れ会



無宗教葬の場合、「葬儀」とよばずに「お別れ(の)会」あるいは「偲ぶ会」とよぶことが一般的です。

しかし、一般に「お別れ会」方式とよばれるものは、死亡直後には近親者で密葬を行い、1〜2ヵ月後に本人の知人・友人に集まってもらいお別れ会を行うものです。密葬では本人や家族の宗旨に基づき宗教儀礼を行うことが多く、お別れ会では無宗教方式が多いようです。



個人葬と社葬

「個人葬」とは遺族が主体となって営む一般的な葬儀のことです。これに対して「社葬」とは、企業が費用を負担し、企業が運営の責任をもって行う葬儀のことです。

「喪主」は祭祀主宰者(さいし)のことですから、遺族の代表者を意味します。これに対して「施主」は「布施する主」という意味があることから費用負担、運営の責任者という意味です。通常の個人葬の場合には「喪主＝施主」ですが、社葬の場合には喪主は遺族の代表者ですが、施主は企業となり、その代表者が葬儀委員長ということになります。

社葬は死亡直後に行われることもあり、大規模なために準備日数も要するため、死亡直後には個人葬としての密葬を行い、1〜2ヵ月後に本葬として社葬を営むことが多いです。

企業ではなく協会等の団体が主催して行う葬儀を「団体葬」とよびます。



無宗教葬(自由葬)

葬儀には宗教儀礼が伴うことが一般的です。それは人の死という悲しい事態において、死者(の霊)を人知を超えたものに委ねる(ゆだね)想い、死者(の霊)のあの世での幸せを祈る気持ちがあるからです。

ところが最近、一部ではありますが無宗教の葬儀が行われるようになってきました。葬儀で言う「無宗教葬」とは「無信仰」とは異なります。特定の宗教宗派の方式にはよらない葬儀という意味です。

特定の形式が決まっていなため、故人の意思、家族の意思を生かす自由度が高いので、これを「自由葬」とよぶこともあります。

でも、注意したいことがあります。後から遺族の心に「これでよかったのだろうか？」と悔いが生じる可能性があることです。よくよくご家族で考えて選択しましょう。



お葬式のいろいろ

伝統的葬儀の見直し

いま葬儀は大きな変革期にあります。一般的な葬儀というのも宗教儀礼のもつ意味が減少し、人と人とのつながりが弱くなり、通夜の告別式化に見られるように合理性・便利さのみが追求されるようになってきているように思われます。

かつて伝統的に守られてきた葬儀には大切なものがあります。「古い」と片付ける前にもう一度考えてみましょう。

第一は宗教性です。これは大切ないのちの終焉という事態に対して、神や仏の前でいのちの行方に厳粛に對峙する時であったからです。

この宗教性が失われることにより、葬儀が軽くなりイベント化してきているように思われます。

第二は共同性です。人は一人で生きているわけではありません。家族、親戚、地域の人、友人、知人との関係で生きています。「暮らし」と言ってもいいでしょう。人の死にあたってお葬式に参加する者も自分と死者との関係をもう一度考え、一緒に送ることが大切でしょう。いま葬儀から暮らし、人と人の関係の温もりが失われてきているように思われます。

第三は遺族の悲しみへの配慮です。昔の葬儀で隣近



所が総出で手伝ったのは、遺族がいま危機状態を迎えており、遺族が弔いに専念できるようにとの配慮からでした。また、隣近所の葬儀に参加することで、遺族の悲しみの深さを共感できるようになったと思われるます。

この宗教性、共同性、遺族の悲嘆への共感の3つがもう一度見直されないと、お葬式から大切なものが失われるのではないのでしょうか。お葬式が多様化するのは時代の趨勢ですが、お葬式が単なる死体処理にならないよう注意することも大切でしょう。

合同葬



本来「合同葬」とは複数の団体が合同して主催する葬儀を言いますが、最近言われる「合同葬」は、会社の経営者等の役員が死亡したとき、個人葬である密葬と本葬である社葬(団体葬)とを分離して行うのではなく、個人葬と社葬(団体葬)を併せて一緒に営むものを言います。葬儀の看板には「〇〇家、△△会社合同葬」と書かれます。

夜の告別式

かつての葬儀は、通夜は近親者で営み、葬儀・告別式に一般の人々が参加するというのが通例でした。しかし最近は通夜に一般の会葬者が多く出席し、葬儀よりも参加人数が多いという逆転現象が生じています。「通夜の告別式化」と言われる現象です。

こうなると近親者が死者と別れの時間をゆつくりもつことができなくなります。参列・会葬者の出席の都合が夜がいいというならば、通夜は近親者だけでもち、翌日の夜に一般の人に案内して告別式を営み、翌朝は近親者だけで葬儀・火葬を営むという方式も考えられます。

お葬式の当日、葬儀をし、出棺を前にし、近親者が柩の前に集まり、柩の蓋を開けて、故人と最後のお別れをします。

ある人は故人の胸に手をあて、ある人は髪を撫で、ある人は顔を撫でながら取り締り号泣します。立ち竦んで呆然としている人もいれば、顔に向けてひたすら合掌する人もいます。泣きむせぶ人の肩を優しく抱えるように抱き締める人もいます。

こうした光景はお葬式のたびに繰り返

されます。周りにいる人もわかつているのです。家族との死別の辛さ、悲しみがどれほど深いことをか。しかも、もう亡き人とは身体をもった形では会えないのです。それがどれほど寂しいことか。だから周りの人はじっとしてこの光景を見守ります。

しばらくすると促されるように花が一人ひとりの手に渡され、一人ひとりが名残りを惜しむように故人に花を手向けます。これを「別れ花」と言います。

別れ花は、茎を切り取り、花弁の部分だけをを用います。故人と関係の深い遺族は故人の顔の周りや胸の上に、友人・知人は脚等の下半身の周囲に花を供えます。

このとき遺族は故人にあの世に一緒に持つていってほしいものも柩に納めます。これが「副葬品」です。

かつては、地方によっては、配偶者をかたどった人形を入れたこともあります。未婚で死んだ男性には花嫁人形を入れたり

お別れ——副葬品の選択



したこともありました。あの世でも一緒に、また、あの世では幸せな結婚生活をしてくれという願いが込められていました。

先日、私が参列した葬儀では、娘さんが亡くなったお母さんの柩に、家族でのハワイ旅行の写真を数枚しのばせていました。その家族3人でのハワイ旅行が家族の楽しい思い出だったのでしよう。

また私の知人の男性の葬儀の場合、夫人が故人愛用のTシャツを胸にかけてあげていました。それは二人のヨーロッパ旅行で、故人が気に入って買い求めたものだったとのこと。蓋を閉じる前に夫人が両手でTシャツを広げ、いとおしげに、大切に優しく胸にかけて、「ありがとう。また、きつと会いましょうね」と語りかけていました。

こんな光景もありました。高齢のお祖父さんが亡くなったとき、お孫さんたちが「お祖父さんへの手紙」を書き、それを柩の中に納めたのです。孫たちにとって優しいお祖父さんであり、故人であるお祖父さんにとっては可愛い孫たち、という関係だったのだでしょう。

経文の書かれた散華の紙の花を副葬品とすることもあります。あの世での仏弟子としての修行、安心、成仏を願うのでしよう。

このように、さまざまな副葬品があります。故人と遺族との関係において、それはさまざまです。遺族の故人への感謝の想い、故人への愛情、故人のあの世での幸せを願う気持ち、祈りが副葬品には込められています。

しかし、柩の中には入れられないものもあります。火葬時に爆発のおそれのあるもの、燃えないもの、遺骨を着色するおそれのあるものです。具体的には、メガネ、酒の瓶等のガラス製品、金属製の釣り竿、ゴルフクラブ、仏具等、書籍、果物等です。愛用のメガネ等は、火葬後に遺骨を納めた骨壺や骨箱と一緒に納め、お墓への副葬品とすることができます。

チチとのメール



毎日メールしてくる。それが私の支えだ。チチは絵文字入りのメールをくれる。私も♡マーク入りの返事を書く。チチのメールは頻繁だ。どこに行ったら、誰と会った、何を食べたかまで知らせてくる。少しうるさいくらいだが、携帯一つで自分は一人でないと実感する。ハハがないということに気持ちが落ち込みがちなのが、チチからのメールで支えられている。あるときチチに言ったら「俺もそうだよ」とボソッと応えた。

私たち家族は、二人の祖母も一緒に、夏は長野に冬は伊豆によく旅行した。チチが運転し、助手席にはハハ、後ろに二人の祖母に挟まれて私が。賑やかで、楽しい旅行だった。私が高校生だったとき、二人の祖母は相次いで亡くなった。両親は仲良かった。母が話し、父が聞くという役割分担であったが、酒が入ると立場は逆転し、父が話し手になり、母が聞き手になった。私は横でニヤニヤしながら二人を見ていた。二人が笑顔で一緒にいると私も幸せだった。学校でいやなことがあるとも気が晴れた。その母が死んで、家には父一人、私は東京でアパート暮らし。チチの写真はメモリアルボックスには入れない。その謹厳な写真は机の上だ。チチも淋しかろうが、弱音は言わず、むしろ娘の私を心配し、



私の部屋には小さな箱がある。私はメモリアルボックスと名づけている。それはほんとうに小さな箱で、中には昨年逝った母と20歳の私のツーショット写真、母の戒名を私が書き写した紙、それに母の遺骨の小さな欠片が収められている。母は昨年、突然逝った。脳溢血であった。手当てが早かったら助かったかもしれないと後から医師に言われたが、あいにくそのとき家にいたのは母一人。夕方家に帰った父が、すでに冷たくなって横たわる母を発見した。私の家は変わっていた。私は、両親を「ハハ」「チチ」と呼んで育った。何でも「パパ」と呼ばれたくないチチの策略によってらしい。それに合わせ両親もお互いを「チチ」「ハハ」と呼んでいた。犬の名前を呼ぶように。私の家の仏壇もそういえば変わっていた。父と母のそれぞれの両親、つまり私の祖父母4人が仲良く収まっているのだ。手が込んでいて、両親の結婚式の折に撮った両家の4人の親が一緒に記念写真まで飾ってある。これは仲良かった二人の祖母の相談の結果だという。チチとハハは二人とも一人っ子として育った。婿に行くとも嫁に行くとも話はなく、二人とも双方の親の面倒は見覚悟であったという。当時としては珍しい考えであったが、4人の祖父母まで同じ考えだったという。父方の祖父が死に、次に母方の祖父が死に、遺された二人の祖母は一緒に我が家で暮らした。私は「チチバー」「ハハバー」と呼んだ。



厚生労働省認定1級葬祭ディレクター
全葬連消費者相談員

——平野さんは厚生労働省認定の1級葬祭ディレクター、かつ試験の審査官も長く務めておられる大ベテラン。よろしくお願いします。

いま、お葬式が変化してきていて、難しい問題もありますね。率直が身の上ですから、率直にお答えします。

お坊さんは葬儀社が紹介してくれるの？

——次の質問は高知県の佐藤登美子さん(62)からいただきました。



我が家が当地に来て20年、こちらには知っているお寺もありません。お葬式のときには葬儀社でお坊さんを紹介していただけますか？



もちろん、葬儀社はたくさんのお寺とのお付き合いがありますから、いざというときにはお寺さんをご紹介します。

でも、故郷のお寺に埋葬されたいのであれば、遠くても故郷の菩提寺ぼだいじのご住職にお葬式をお願いするのが筋というもの。菩提寺のご住職のご都合がつかないときには、菩提寺のご住職を紹介をお願いするといいいでしょう。

——菩提寺のご住職と関係なく葬式をすると、どんな問題がありますか？



まず菩提寺の墓に埋葬を許してくれるか、という問題があります。次に戒名(法名)ですね。菩提寺に相談なく葬式をした場合、葬式でつけていただいた戒名(法名)が菩提寺から否認されるという場合もあります。その場合は、納骨の際に、改めて菩提寺の住職につけていただくことになります。

——お墓が菩提寺ではなく、公営墓地や民営墓地の場合はどうですか？



お墓が公営墓地や民営墓地にある場合には上のような心配はありません。しかし、…

——しかし、とおっしゃると？



お葬式をしていただくのは誰でもいいという訳ではありません。「この人であれば私の死後を託しても大丈夫」と信頼できる僧侶を事前に選んで、よくお願いしておくといいいですね。葬儀社と宗教者は事前に選んで決めておく、これが鉄則です。

平野典子の

葬儀なんでも相談

香典辞退、お花は受け取ってもらえるの？

——さて、最初の質問です。京都府の及川慶介さん(65)からいただきました。



友人の葬儀の案内がきて、そこに「香典は辞退させていただきます」とありました。親友だったのでせめてお花くらいは贈りたいと思うのですが、いいでしょうか？



本来、香典というのは故人を弔う気持ちを形で表現したものです。助け合いという意味もありました。ですから香典は本来は、受け取る側の意思ではなく、出す側の自由意思によるものなのです。ですから何も断りがなければ「香典は受け取る」ことを意味しています。

——その香典を辞退される方が出てきた、ということは？



あまりいい傾向ではありませんね。「私の家は香典をもらわなくては葬儀を出せない家ではない」ということのようにですが、どうでしょう。悲しみというはお互いにあるわけですから、気持ちを分け合う、共有するという意味でも大切です。「お返しが面倒」とおっしゃる方がいますが、ハンカチ1枚でもいいではないですか。心の通い合いが大切だと思いますよ。

——その香典を辞退されたら？



弔おうとしている人の気持ちは宙ぶらりんになって困りますよね。お世話になったのだから、せめて何かしたいと思うのは当然です。お花を供えるというのはいいいですね。特に「供花、供物は辞退します」と断っていなければ、お花は受け取ってもらえます。

——「香典辞退」とある場合には、お花は受け取ってもらえるということですね。



そうです。香典、供花、供物は何も断りがなければ「受け取ります」という意味です。「香典辞退」だけであれば、供花や供物は受け取る、という意味になります。

本来お葬式というのは悲しみの分かち合いという意味があります。合理的にすればいいというものではないです。会葬者の弔う気持ちも大事に受け止める必要があります。

「葬式無用」と言っているが？

——福岡県の大崎純一さん(56)からの質問です。

Q 父はいま入院中でもう長くないと医師にも言われています。父は「死んでも葬式しなくてよい。火葬だけでよい」と言っています。子どもとして耐えられません。父の意思は守らなくてはいけないのでしょうか。

 難しい問題ですね。お葬式には2つの面があると思います。一つは亡くなった本人が遺す人へお別れするという面であり、もう一つは遺された者が亡くなった方にお別れするという面です。前者を「死者のため」、後者を「遺された者のため」、あるいは前者を「死者の意思により」、後者を「遺された者の意思により」と言うことができるでしょう。そしてこの2つの面が分かち難くあるのがお葬式です。ご本人とご遺族の意思が合致していれば問題はありません。本人が「葬式無用」と言い、遺族も葬式するよりも家族だけで静かに送ってあげたいと思うならば、周囲がどう言おうと問題ありません。しかし、本人は「葬式無用」と思っても、遺族が「しのびないからきちんと葬式して丁寧に送ってあげたい」と意思が食い違うこともあります。

——法的にはどうなのですか？

 法律では、たとえ遺言で葬式のことについて意思表示していても、遺族はその意思に拘束されることはありません。もっとも意思をまるっきり無視していいというわけではなく、本人のお気持ちは尊重して、派手になりすぎない形でおやりになるのはかまわないでしょう。

——本来どうすればいいのでしょうか？

 生前にご家族でよく話し合っておくことです。ご本人には葬式のことで家族に迷惑をかけたくない、というお気持ちがあるのでしょう。でもご家族は大切なお父様ですから粗末にはしたくない、というお気持ちがあるでしょう。本来はお元氣なうちによく家族で話し合っておきたい事柄です。

——お葬式をしないという結論になったら、どういう問題がありますか？

 ご家族がお父様に充分なことをしてあげられなかった、という悔いが残ることがしばしばあります。また、ご家族以外でも、お父様と親しくされていた方にはお見送りできなかったというつらい気持ちが生じます。ですから私は、お葬式は小規模でもいいからきちんと行ったほうが良いと思っています。お葬式をなさらないときは、関係者の方々へ丁寧な挨拶文をお送りすることをお勧めします。

自分が認知症になったら？

——宮城県の有川佑子さん(78)からの質問です。

Q 私は5年前に夫を亡くし、アパートを経営しながら一人暮らしをしています。2人の男の子はそれぞれ別の地で家庭をもっています。最近物忘れも多くなり、この後認知症にでもなってしまったらと心配です。子どもたちには迷惑をかけたくありません。

 日本人の平均余命は男子78.64年、女子85.59年です。これは0歳を基準にしたもので、60歳の人の平均余命は男子22.17年、女子27.74年ですから男子は82.17年、女子は87.74年となります。1955年の平均寿命が男子63.60歳、女子67.75歳であったことと比べると、隔世の感があります。

——たいへんな超高齢化社会ですね。

 お年寄りが健康で長生きできればいいですね。しかし、高齢化すると避けられないのは物忘れなどです。これが進むと自分で自分のことが充分に判断できない認知症に陥る可能性が誰にでもあるということです。私も他人事ではありません。90歳になる母が認知症で、いま介護をしています。

——お子さんに面倒をみてもらえればいいのですが、できない場合は？

 介護保険の認定を受けて施設に入ることが考えられます。しかし、その前にもいろいろ判断しなければいけないし、騙されてお金を盗られることにでもなったらたいへんです。そうした場合、任意後見という制度があります。これをご利用なさったらいかがでしょうか。任意後見制度は、本人が判断能力が充分なとき、将来の判断能力の低下に備えて、本人が後見人を選定し、本人の希望する支援内容を定めて公正証書で契約を結んでおく制度です。あなたが万一認知症になってしまったとき、あなたに代わってアパートの管理をしたり、その収入で老人施設に入る、あるいは社会福祉士に自宅で介助してもらいながら生活する、ということあなたの意思で決めておくことができます。後見人もあなたが決めておくことができます。もし適当な人が身の周りにいないときには、法律・財産管理のことは司法書士会の「リーガルサポート」(03-3359-0541)に、身上監護のことでしたら社会福祉士の「ばあとなあ」(03-5275-3694)に後見人候補を依頼することができます。

——お葬式のことは？

 葬儀社さんと事前に相談されて決めておくといいですね。



if共済会の会員特典を 活用していますか？

——上手に会員特典を使いこなそう——

if共済会の会員には大きく4つの特典があります。
上手に会員特典を使いこなしてください。利用すれば利用するだけ役に立つ特典です。

1 登録した2親等までが弔慰金サービスを利用できる

サービスの基本

会員ご本人か、登録済の2親等以内の方が亡くなった場合に、全国どこでも加盟店に葬儀を発注したときには基本葬儀料の10%を弔慰金として給付を受けることができます。

CHECK 1

2親等以内の親族の葬儀で利用できます。

会員ご本人・配偶者はもちろん、同居の有無に関係なく、ご本人と配偶者にとつての両親、祖母、兄弟姉妹、子供、孫の方の葬儀において利用できます。

CHECK 2

if共済会の加盟店は全国にありますから、もしものときには、その地の加盟店に申し込んだ場合には弔慰金を受け取ることができます。会員証を提示するか、会員番号を示してください。

他の地域で2親等以内の親族の方が亡くなった場合、入会取扱店にご相談いただければ、その地の優良加盟店をご紹介します。

2 葬儀や死後の手続き等さまざまな不安や疑問にお答えする相談サービスをいつでも利用できる

サービスの基本

葬儀に関する不安や心配事にとどまらず、死後の手続きや処理について不安や疑問があれば、会員はいつでも加盟店で相談サービスを受けることができます（一部有料）。

CHECK 1

国民健康保険の葬祭料はどのようにしたら受け取ることができるか、安心な遺言の作り方は、相続税の相談にのってくれる税理士さんはどこに、など心配になっていることはありませんか。ご相談いただければ加盟店では適切なアドバイスを提供します。

CHECK 2

専門家のアドバイスが必要なときにはご紹介いたします。有料相談もありますが、事前に有料かどうか提示しますので、安心してご相談ください。



3 葬儀の内容を指定し、見積もりを得ておく生前予約制度が利用できる

サービスの基本

会員ご本人の意思に沿った葬儀を実現できるように、予め葬儀の方法、道具など細部にわたって指定し、それについて事前に取り決めておくことができます。

CHECK 1

ご本人が自由に葬儀のデザインをすることが出来ます。その仕様書を家族に示すことにより、具体的に自分の意思を家族に伝えておくことができます。

CHECK 2

ご本人だけでなく、家族の葬儀についても予め決めておくことができます。いざというときに精神的に動揺して冷静な判断力を欠くことになっても、慌てることも、準備不足もなく、しっかりとした葬儀を執り行うことができます。

CHECK 3

予め考えた葬儀の仕様書に基づき、事前のお見積もりを無料でいたします。金額の目安がついていれば、いざというときいくら資金を準備したらよいか迷う必要がありません。また、見積金額を見て仕様の変更を行うことができますので、内容・費用とも満足できる仕様書を作っておくことができます。

CHECK 4

仕様書作りには加盟店がお手伝いします。葬儀やそれにまつわることに知識不足があっても、安心して納得いただける仕様書作りができます。また、これを通じて葬儀の手順等が把握できますので、もしものときに安心して取り組むことができます。

4 保険プランを利用して葬儀費用を事前に準備できる

サービスの基本

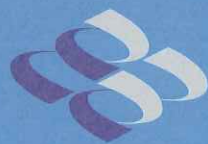
オプションで別に契約することにより、一生涯保障の葬儀費用を準備することができます。

CHECK 1

遺された家族が葬儀費用のことで心配する必要がなくなります。

CHECK 2

一生涯保障ですので、いつ亡くなるかがあっても保障がなかったということはありません。



経済産業大臣認可

全 葬 連

if共済会会報

NO.8